会長をお迎えして、私の心も

久しぶりに地元生え抜きの

の記者となった私にとって、

昭和二十二年に秋田魁新報

ります。」と述べられた。 め、陰になり日向になって参 母校秋田高等学校の発展のた 徳、勇の三剣校章に恥じない



平成15年度同窓会入会

百五十八名の新会員を迎えて から、母校の大体育館で三 は、二月二日 平成十五年度の同窓会入会 (月) 午前十

で始まった。 佐藤晋事務局長の開式の言葉 会長らPTA役員、菅原洋校 会長など来賓、同窓会員ら約 長はじめ学校教職員、同窓会 十名が参列。碇谷阿津子さ ら辻兵吉会長、山谷浩二副 入会式には、三浦潔PTA (昭56卒) の司会のもと、

題字は第六代塩田会長 発 行 秋 田 県 立 秋田高等学校同窓会 秋田市手形字中台一番地 TEL 018 (832) 9553 印刷 (有) 三 浦 印 刷

のはあなたたちだけだ。伝統 る。この傾向が続けば、国は 若い人が少なくなってきてい 滅亡する。新しい世代を造る 式では、辻会長が「いま、

|ある秋田高校を卒業後、社会 た。 意味でも、自分の人生を考え 育てて行くのはあなたたちの 次の世代を担う人々を作り、 てもらいたい」とあいさつし で活躍するとともに、結婚し、 大きな責任である。そういう

たりする。

続いて、秋田市立大森山動



 ϕ 兵さんとのおつきあいは長い。 辻兵一族の代表としてのみ 予算はゼロになったことであ る

毎年政策として訴え続けてき の良き相談役であり、秋田商 た手腕は、秋田県市民にとっ 績性あるキャッチフレーズを 工会議所会頭として就任する 好・不況にかかわらず、実 年々減少傾向をたどり、十五 三点は、会費納入状況が平成 七年度千三百二十六万円から 成十年~十四年にわたって、 千人となっていることである。 五年間連続会費未納者が約九

号』のごあいさつで、「六人の

辻新会長は だより七十一

会までスタッフとともに運営

残余の任期、平成十七年度総 新副会長や各委員長ともども、

でることをモットーに、智

てありがたいことであった。

落ち込んでいる。

して参りたい。文武両道に秀

山谷浩二氏ら六氏を選任して、 副会長には会員になじみ深い

新しいスタートを切った。

く副会長を努められた辻兵吉 山健会長の後任に、三十年近

(昭19卒)を新会長に、新

窓会は、勇退を表明された丸

ならず、

智将石田博英代議士

百三十周年を迎えた秋高同

もうひとつの問題点は、平 る。

要員もいなかったので、私と 魁社編集局秋高出身者の力を 事務局には、書き手も編集

会費未納対策に重点を 理事公蒙公公有 謙《昭和2年卒》

前財政委員会のべたより

削減業灰対

同窓会予算の健全化を

間報告」が財政委員長によっ ともに「平成十五年度会計中 百万円を繰り入れてつじつま 初の理事会で、既定の案件と て報告されたが、内容を伺っ て愕然とした。基金会計から 昨十五年十二月、新会長最 ぱらだより削減案に置き、 案一、案二、案三を提案して 二百七十万、九十万、二百十 いるが、これによる削減費は の経費削減案は、対象をもつ これに対する前財政委員会

年中間報告では一千万円台に 借りて編集発行した。 って、なくてはならない情報 の効能は、一般同窓会員にと 機関であるとの認識であった。 これによって得た「だより」

催して、十六年度会計予算の 速水洋子氏と電話で対談した。 新年度早々、財政委員会を開 新年早々、新財政委員長

万円という微々たるものであ

物園園長の小松守氏(昭46卒) が「先輩激励のことば」を述

それぞれの場で、学ぶべきこ | 広く持ち、素直に、謙虚に、 は「困難な時代だが、視野を 新会員を代表して、島田君

|ことなく、| 層の精進を重ね 式を終えた。 て行く」と決意を表明、 に「校友会歌」を斉唱、

谷浩二氏が、前生徒会副会長、 島田諒君に記念品を贈呈した。 | と、吸収すべきことをひるむ べ(別項で掲載)、副会長の山

入会式激励のことば 「あくなき挑戦者たち」 **園 長小松** 大森山動物園 小松 守氏(昭和46年卒

| それは、ふだんの活動の中か | けらかすことは間違いである。 | るほどに大事なものである。 裏 であり、生きて行く上でのエ ないもの、プライドだけをひ 返しに見ると、プライドは自 ある。これは、命に代えられ 族であり、友人であり、財産 くさん持っている。それは、家 ライドを形骸化して、中身の ネルギー源である。しかし、プ 分のいる位置、社会での地位 であったり、自分の命であっ その中の一つにプライドが 人は、大事にするものをた う社会で仕事をしてきた。 ほぼ二十九年間、動物園とい かかわった話に移るが、私は 開いていってもらいたい。 ドを高くして、新しい時代を それでは、今度は、動物に 社会から見ると、動物園は

き挑戦者たち」である。今年

年間努め、だよりの編集発行 に当たった。 輩に頼まれて広報委員長を十 魁の記者当時、花岡泰雲先

確立したい」、というものであ え、理事会に諮って解決案を 未納者対策であり、そのため 情報機関としての役割から、 同窓会全体の問題としてとら 見だが、だより削減案は会員 った。私としても速水案には 絶対反対である。私の主眼は 大賛成である。 には財政委員会のみならず、 編纂私案にとりかかりたい。私

ただき、蛮勇をふるって事態 が、スタッフ一同をご高導い の改善を切望する。 早々の難問で真に恐縮である 辻会長におかれては、新年 (平成16・1・15記)

ブ会長 評論・著述・現青柳町老人クラ

元秋田テレビ・初代代表取締役 集局次長

い地を求めて頑張ってほしい。

は我が身かもしれないのだ。ればよいものではない。明日

ほんの小さな世界でしかな

| ら出来てくるものである。 ういう点では、自らのプライ 齢化、人口減、経済の低迷、 ーになることを求めている。そ 窓生、卒業生に社会のリーダ ってきている。秋田も少子高 いろんな問題をかかえている。 世界はいま大変な時代に入 いま社会は、秋田高校の同 まず、常に動かして世界を見 なことがわかってきた。 通して、「葦」を広角的に、休 うが、自分自身では、動物を 天井を覗く」ようなものだろ その小さな世界。「葦の髄から てきた。それによっていろん 今回のタイトルは「あくな

進化してきた。 哺乳動物は、原始食虫類から ゾウ、キリンなど、すべての してみたい。 私たち人間を含め、サル、

生活に入った。 ものが新天地を求めて、 いていた。その中で、一部の 中や藪の中でこそこそうごめ べて地上であった。夜の闇の 原始食虫類の活動の場は、す 恐竜が生息していた時代、 樹上

間である。それらが、新天地 ガリネズミやモグラなどの仲 類というのは、いまでいうト だから大変である。 を求めて樹上へ出て行った。 地上で動いていた原始食虫

かなかうまくいかない。しか び移らなければいけない。 し彼等は決してあきらめなか 地上を歩いている時と違っ 滑る時もあるし、木も飛

元秋田魁新報社常勤監査役・編 ているような手を得た。親指 うな両眼視、真っ正面から物 サルの仲間以外にいない。あ を見て距離を測定する能力。 るいは、人間の持っているよ が四本の指と向き合う動物は そういうことに挑戦すること

最後 獲得した。 によって、 新天地での生活を

な動物へと進化させる原動力 彼等の頭脳を発達させ、高等 ない環境を見つけた。それが エサのある、豊かな、敵のい をすることによって、豊富な になった。 原始的なサルは、樹上生活

であった。 上に移るものが出て来た。そ れは、大変な苦労を伴うこと ルの中には、森から出て、地 いう大きな変化が起きた。サ ところが、地球の乾燥化と

はサル年。サルの進化の話を ことを忘れないでほしい。 る。なにかを成し遂げるため 生の中で、あれだけ頑張れた な挑戦が待ち受けている。高 になってくる。試練は決して 生き物というものは、新しい 人間というものが出来てきた。 道具を使い始めた。言葉も発 戦し続けるという試練が大事 そして二足歩行を獲得。手で 新しいものが必ず得られる。人 れを乗り越えることによって、 無駄になるものではない。こ 戦し続けたということである。 には「常に挑戦する」という んだから、と思い出す時があ いものを求めるためには、挑 生活、新天地を求めて常に挑 するようになった。そうして、 これから皆さんには、大変 ここで話をしたかったのは、 再び、あくなき挑戦が続く。

気力、智力、体力のバランス いうこと。 をうまくとってもらいたいと 皆さんの目を見ると、気力 最後に、一番大事なことは

その結果、いま我々の持っ は、 明日の戦いに向かって、新し 力、体力のバランスをとって、 邪などひかぬように、気力、智 は易き所にある。ゆめゆめ風 のと思うが、過ちというもの は十分に備わっていることが 道のこの学校で培っているも 顔に満ちあふれている。智力 る。あとは体力だけ。文武両 秋田高校から授かってい てほしいかを考えておくべき」 の尊厳を守る事を第一に自分 で、対岸の火事として見てい についてもどうするかどうし

天 上 天

下

疲れは消えない。▼高齢者の ると言われている。▼虐待を 介護については「人間として をすぐ忘れてしまうなど訴え どが多いそうだし、加害者は る情緒的、心理的なもの」が どはわかるが、あまりにも簡 来に対する不安や負担による 険が施行され、 多いと見られている。介護保 をとの意見もあるが、高齢者 因や動機を調べ根本的な対策 子供の場合と同じく虐待の 策を講じているのが現状。▼ 祉関係者が訪問して気づき対 ることができず、ほとんど福 女とも痴呆で虐待されたこと わかるように女性が多く、男 受けているのは平均寿命でも 家族構成にもよるが、息子が 的な虐待」一世話をしない」な もっとも多く、次いで「身体 高齢者への虐待は、「言葉によ のだろうか。▼在宅の場合、 県では調査したりしているも もかなり多いようだが、秋田 ティック・バイオレンスなど 性的、暴力による虐待ドメス 齢者への虐待や夫から妻への ど報道されることが少ない高 殺人や殺人未遂以外はほとん 件と違い、介護の疲れによる じ家庭内のことだが子供の事 何か触らぬ神にたたりなしと 単に引き下がっているようで、 ろ難しさを伴っていることな 家庭への介入までにはいろい れている。が、関係者の反省 応についても事細かく伝えら のつど学校や児童相談所の対 には、 れてきてはいるが、介護の将 事件が相次いで報道され、そ いう感じがする。▼一方、 の弁を聞いていると、個々の 一番多く、次いで夫、嫁によ ここ数年、子供を虐待する いま生命の危険な例も 徐徐に改善さ

第

年度の中間において、同窓会

理事会では、辻兵吉会長が

| ンター試験へ出願した。] と述

| 編成も難しくなる。 今後、

企画委員会=小林良弘理事が

も相談して進めていきたい。

広報委員会=提言・随想の

常置委員会報告は次の通り。

ついての意見交換などが行われた。

平成十五年度の第二回理事会が、

去る十二月九日(火)午後六時から秋田市中通の

記念事業について、十五年度会計の中間報告、次いで今後の同窓会の運営上の諸問題に 弥高会館で理事九十人余が出席して開かれ、各常置委員会の会務報告、秋高百三十周年

平成15年度

90人が出席

| 理事以外にも対象を広げては

事業の出席案内については前

念事業についての報告を二ペ より七十二号は百三十周年記 執筆者を推薦してほしい。だ

ージ見開きとしている。

ついて説明。百三十周年記念

例に倣って行ったが、今後は

事日程・十五年度の入会式に 委員長就任の挨拶と後期の行

どうか、大きな施設は作らな

通り五年に一回発行していく

名簿委員会=名簿を今まで

ことに意味があるのかどうか

いとしているが必要なものは

作らなければいけないなどの

吟味しなければならない。個

意見があると報告。

秋田高校同窓会理事会

費の納入率が例年よりちょっ

の意見があると報告した。

百三十周年記念事業につい

罪などを見極めるべきだなど

た速水洋子理事が、同窓会

財政委員会=新委員長とな

の問題もあり、名簿に集約さ

人の情報・データの拡散など

れる同窓会の動き、

功

願いし、当初予定した千二百

らうという趣旨で募金した結 ては、多くの方に参加しても

万円をなんとか確保したい。こ

うしたことでは来年度の予算

百三万五千九百九十三円とな

四千百四十五名、二千八

込み用紙を同封しご協力をお 送のさい未納者には再度振り と悪い。だより七十二号の発

手形校舎か、駅前校舎、中台 すべてが、東根小屋町校舎か、 校舎で学んだ人達である。 現在活躍している同窓生の でもあった。

比較的静

全くもって知る由もない。 最後で、それ以降の卒業生は 舎は、昭和十六年の卒業生が 焼失している。東根小屋町校 -十ヶ月余、十二月五日には -九日まで、その期間僅か九 +が接収する昭和二十年九月 十四日移転してから、進駐

年四月に入学した我々昭和十 進み若い命を失う哀しい時代 あり、手形校舎から多くの逸 平洋戦争へと突入していった 七年卒生からで、その年に日 支事変勃発、卒業三ヶ月前の して入学したのは、昭和十二 から、正に戦時動乱の時代で 昭和十六年十二月八日には太 材が陸士、海兵、予科練へと 手形校舎に初めて一年生と かんでくる。

を上げている。文の方は三年 部の方は大変すばらしい成績 挨拶。次いで、菅原洋校長が 営をご支援いただきたい」と いろいろと討議し、今後の運 文武両道ということで、運動 の九十五・三%が大学のセ あり方や会費の集め方など

形校舎で、昭和十一年十一月 この中で最も短い歴史が手 って、校門を出ると、当時T かな落ち着いた環境の中にあ から南側に位置し、 校舎は今の秋田大学の正門

でいて、 を創案した岡忠精氏宅、その くと本校一期生で、今の校章 隣に矢萩文具店、また少し行 角には今井魚屋が、そのすぐ 向こう側に三吉饅頭屋などな ている。少し行って左折する 角に工藤理髪店、続いて菓子 ど、目を閉じると忽ち自然に 屋の天明堂、銭湯などが並ん 字路だったところに、現在は 字路となっているが、その 今も昔の面影を残し

三吉饅頭は て誉れ高かった玉木正行氏で から最後まで、文人校長とし いの言葉を掛けられた。 渉がましくなって来た頃でも、 に配属将校等が時局を楯に干 れたのは、戦時下の元、次第 あった。特に文人校長と言わ |徒の本分は学問にありと 手形校舎時代の校長は最初

正な顔を綻ばせて一言二言労 とは良く出会い、敬礼をする と丁寧に挨拶をかえされ、端 らず二皿平らげるものもいた。 十銭で一皿十二個の饅頭が激 夕暮れ帰る頃、痩身瀟洒な着 流し姿で散策している岡先生 しい練習の後では一皿では足 部活帰り多くの者が利用し、

という風聞が、いつしか生徒 ういう校長に生徒たちは、密 長による週一度の修身の講義 の耳にも入って来ていた。そ かに尊敬の念を抱き、玉木校 て、相当の圧力を受けていた たことから、秋田中学の校長 少しも妥協しようとしなかっ 時局を弁えぬ軟弱者とし

動の時代の中にあっては恵ま 順調に行われていたので、 があったとしても学業の方は 生頃までには、 鳴りを潜め威儀を正して迎え したがって、 際しては、教室の猛者達も 勤労奉仕など 昭和十八年卒

れていたといってよい。

平成

16年度大学入試

出願状況

 $\widehat{-}$ 般

・推薦・センター利用の延数)

終了したことを確認した。 ませることができたなど無事 基金から補助しないです

ては役員会・各委員会などと 納の問題をどうするかについ 円繰り入れとしており、 計では、収入の部の予算に例 計中間報告が行われ、一般会 年と異なり基金会計から百万 会計の支出の部にも計上して

続いて平成十五年度の各会

一いるが、 ラスとなった。また、一般会 六年度の予算・決算から変更 計の科目の記載順は、平成十 が祝賀会費・ご祝儀などでプ 事業の予算は、収入の補正額 へ支出しないで済んだ。記念 百三十周年記念事業

案があり、今後、理事らから

年次への支援などについて提

てもらうとともに役員会・理 意見などを随時事務局へ寄せ

が増加した。また、前年度増

ロック大では前年より出願数 東京・新潟などの難関大やブ 北海道・東北・筑波・千葉・ 首都圏志向も依然として強い。

加して今年度減少したもので

は、国公立大学では横浜国立・

東京学芸・京都などで、

また

その対策、当番年次制度や若

から財政に関わる会費未納と

多い。また本校の特徴である

現のために初志貫徹の生徒が

の諸問題については、事務局

することなどを了承した。 平成十六年度同窓会運営上

願大 状学 況出 進路指導主事 佐 ā

を見ると、前年度平均点が低 え続けていた受験者数が初め った昨年より一五、 自然減がその主な原因である。 て下がった。現役受験者数の 減少し、平成十一年度以降増 験した。全国の受験者数は五 十九%にあたる三一九名が受 って実施された。秋高生の八 月十七・十八日の両日にわた 八七、三五〇人で、 過去最高だ 全国のセンター試験の結果 今年度のセンター試験は一 五三七人 る見込みであり、 続で平均点が下がった。 均点は例年並みに全国を約一 全国平均は約二ポイント上が 得点(九〇〇点満点)では、 五教科七科目を課した。総合

今年からほとんどの大学が

たり、 られている。 り着くまでに転々とし、苦労 の連続であったことは広く知 目ともなり、駅前校舎にたど に伴い動員されるようになっ し、それ以降は、 戦後は、 校舎を失う破 戦争の激化

味も吹っ飛んだことを覚えて 日に卒業式があり、終わって 同窓会への入会式に臨んだと れたご馳走のライスカレーの るよう突如申し渡され、 られるので、お礼の挨拶をす ころ、竺さんこと伊達先生か さて、 先輩が祝辞の言葉を述べ 昭和十七年三月十 出さ

た学び舎であった想いと、こ 奥深くに今なお生き続けてい た人達へのレクイエムが心の の校舎を後に、若くて散華し 流れる伝統の下、最高に優れ たが、顧みて、 手形校舎は歴史こそ短かっ 改めて脈々と

> 下がった。数学ⅡBは二年連 がり、日本史B・化学IBが かった国語ⅠⅡ・地理Bが上 公 一討することにした。 生が受験する難関大学・学部 講座を終えた。一丸となって、 る傾向がある。三年生は緊張 へと向かっている。 私立、国公立前期そして後期 感を維持しつつ個別試験対策 のボーダーラインはより上が 点が上がったときには、 事会などでも具体的に討議検 秋高

| が上がったりしても、 ある。センター試験の科目負 とも昨年度とほとんど同じで スとなったが、今年の出願総 担が増えたりボーダーライン 数は国公立大学及び私立大学 ある。昨年度から学年九クラ 出願状況は別表のとおりで

本校生の平

一願いするものである。 学は難化安定のままである。

百三十周年学年の後輩たち

いるが、秋高生が受験する大 が易化傾向にあると言われて 受験者が多い。少子化で大学 ている。早稲田・中央・法政・ 中にはセンター利用も含まれ

慶應義塾・立教は例年並みに

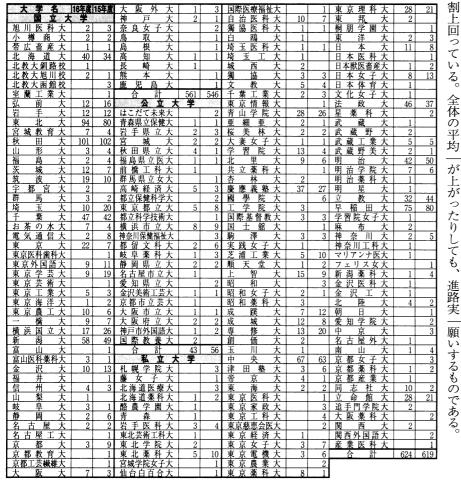
ある。私立大学は昨年並みの

一名のうち三九名が医学科で

六二四名が出願したが、

文科などである。秋田大一〇 公立大学では東京都立・都留

同窓生諸氏の後押しを切にお は最後の力をふり絞っている。



紙に歌

第

32

年ぶりの花園

秋田高校ラグビー部

の全国への挑戦は終わりを告 ビー部の三十二年ぶり五回目 ルラインに届かず、秋高ラグ に鳴り響いた。あと一歩ゴー ンドにノーサイドの笛が無情 化園ラグビー場」第一グラウ 久我山戦。 十時四十分、「聖地二〇〇三年十二月三十日。 対 持ちになったことは無かった。 以外で、選手のこのような顔 それだけ、魂を出し尽くすこ | 併せて選手も入れ替えた。勝 敗れた時に初めてそれを見た。 年前の花園予選決勝で秋工に の顔だった。ゲームに勝った していた時に敗けてそんな気 残念ながら、自分がプレーを を見るのは、二度目だった。五

| までの我慢モードから一気に

ラン通りに進み、後半はそれ

ゲームは押されながらもプ

不足なのだろうと痛感させら

攻撃モードに転換する指示と

というものだった。

グラウンドから引き上げて

とは難し

いことな

に と「安堵」が入り交じった、正 くした者だけが見せる「誇り」 分の持てる力を本当に出し尽 やかな好い顔」をしていた。自 きた選手の顔が実に印象的だ りとうなだれ泣いている者も いたが、三年生の多くは、一爽 った。下級生の中にはがっく 「精根尽くして颯爽たり」 も取れず のトライ 本奪わ トライ三 ら見れば、 のだろう。 結果か

花園ラグビー場のある東大

崎北陽台高である。私と妻が 阪市はラグビーの町でもあり、 秋高初戦の相手は進学校の長 また作家の司馬遼太郎が愛し 全国大会出場を果たした母校 三十二年振り五回目の花園 り印刷さ れた校歌 応援団よ た直後、 してあげ て彼に渡 詞を書い

場を取り囲むように生駒山が、 がもろに当たり、師走のこと の名残りに染まってゆったり ほんのりとした薄紫色の紅葉 射しが容赦なく人々にまとわ さら暖かなむしろ暑い位の陽 座った秋高応援席側には太陽 と雄大な山容をみせていた。 いてくる。花園ラグビー とラグビ ー部歌と

聞いてくる、「ええ、ルビコン えてるんですか、私はS59年 と私が答えると、 が言ったので、「S36年卒です」 卒ですが何年卒ですか」と彼 と私が口ずさむと、「へぇ、覚 の流れ雄姿を宿し天山の嵐_ うでしたでしょうか」と私に か座って、「ラグビー部歌はど 私の右隣りに三十代の男性 ると応援席の中央に私が秋田 ちは、上が太い横縞のライト 秋高フィフティーンのいでた かり面をしゃくりあげ踊った。 を離れて何十年振りに会うナ ガホンが廻ってきた。ふと見 トッキングは紺の鮮やかな色 マハゲが立っていて、二度ば 合いのジャージであった。 ブルーと白、下がブルーでス

> 零封されての完敗であったが、 内容はあと一歩流れを引き寄 せることができれば「あわや」 (昭和56年卒) 私自身の指導者としての力量 い全国との距離であると共に この一歩がとてつもなく大き うところでトライをさせても 台育英戦でも感じたことだが、 らえなかった。東北大会の仙 は残る。本当にあと一歩とい ストで組めたら」という思 負の世界に一たら、れば」は 通用しないが、「メンバーをべ

> > 北工業大学学

長)を新会員として選出し

手たちは学業との両立に揺れ 優勝して以来、この一年間選 そして悲願の夢を体現してく ながらも一歩一歩ステップア の言葉を贈りたい。 うと同時に心から感謝と労い れた。そんな彼らを誇りに思 ップし克己・成長してくれた。 中央支部新人大会で初めて

ら感謝を申し上げて花園大会 ご支援いただいた皆様に心か 末筆ながら同窓会を始め、

みによりトライ、ゴールも成 席は興奮のるつぼと化した。 功し七点をゲットし秋高応援 に入り、FWの渾身の押し込 ハーフタイムの間、「天上は

ガーの聖地で校歌をメガホン った展開ラグビーの色彩を強 った敵はFW、 始されると、修正の戦略を練 で高らかに歌った。後半が開 るかに」が始まり私も高校ラ

クオフで試合が始まった。前 半風上の秋高は敵陣での攻防 が多かったが先取点が取れず、 崎北陽台は上下とも白、スト かった。しかし二十分、秋高 互いに得たPGも決められな ッキングは黒のシンプルなジ 十一時二十分、相手のキッ を決められ同点とされた。 必死で防御していたが、後半 生かし、終始秋高陣に攻め込 烈に増してきて、風上の利も りアドリブの効いた応援を送 っていた三十代の眼鏡の毬栗 む様相を呈していた。秋高も 一十分、遂にトライとゴール 秋高応援席最前列で前半よ

ヤージであった。

頭の男性が、さらに熾烈なト

は相手の反則から相手陣左奥

会で、本校昭和 年十二月十二日に開いた総日本学士院は、平成十五

この会員は、いずれの分野

究で、

気記録方式の高密度化の研

19年卒の岩崎俊 一氏(現在、東 日本学士院の新会員に でも学術面で顕著な功績があ

崎 氏

った研究者から選ばれること になっており、岩崎氏は、 (昭和19年卒) 磁 重光章」を受章されている。

|

術研究の功労により、 電子工学の発展に貢 く評価された。 献したことが高 秋の叙勲でも学 なお、十五年

有限会社

奥田酒造店

樹/留和42年卒

ることが決まりました。昨年

の八月三十日に各年次の代表

の力の積み重ねによることで 六年度に第五十回目の定期演 す。このことは、多くの顧問 奏会を開催することになりま の先生達と多くのOBの皆様 秋田高校吹奏楽部は平成十

一えるにあたり、 が集まりまして相談をした結 この五十回という節目を迎 第一にOB会を発足させ 昨年より有志

濤の如くになだれ込み、遂に 突進していく、総立ちの我々 央ゴールに秋高FW軍団は怒 絶叫していく、そして敵陣中 応援席も | ウワーイケエー」と の目の前を縦に一ゴツン」と 試合はロスタイムに入ってい ーンの応援を放ち出していた。 執念のトライである。 でスクラムからマイボールを た。中央付近で敵のノッコン 王審の右手が高々と上がった、

ラグビー場の隅で、眼鏡の毬 右端の七十代の男性が言った。 う言い残すことはないよ」と 勝って今日秋高が勝って、も 栗頭が「俺のお陰で勝てたん ができねえよ、今年は阪神が 席は感激そのものにゆさぶら ればいけないから正月の用意 れた。私は鳥肌が立っていた。 ああ、明後日もここに来なけ ゴールも決まって我々応援

タフネスさが僅かに敵を凌い だから勝てた』と私は思った。 「必死のタックルと突進の

> |との声もありました。 関係の皆様、吹奏楽部のこと 史を再調査して活動の記録を すが完全ではありません。 きたいと思っております。 をご存知の方はご連絡いただ 昭和三十年以前の吹奏楽部の まとめたいと考えております。 係者で名簿調査をしておりま これを機会に吹奏楽部の歴

お迎えして八十名の参加で〇 待ちしております。 telO一八(八九六)五九二〇 ャパンファミリー内 長谷川 連絡先 事務局 (有) ジ

先生、大友先生、小林先生を 問の笹渕先生、元顧問の伊藤

ので、在学中に吹奏楽部に関

係のあった方もまたご連絡お

われ、十一月七日に秋田ビュ

た、

それから何回か幹事会が行

ーホテルに於きまして、現顧

月に設立準備のOB会を開催

することが決定されました。

幹事を決めて名簿調査・連絡

に当たることが決まり、

会が開催されました。その場

によるOB会発足準備世話人

では各年次を十年単位で分け、

演奏会の対応について協議が 行われ、第一にこれを機会に B会設立準備会が開催されま その時に、五十回目の定期 faxO一八(八六二)三五三六



院長

ました。

また、

羽羽後設備株式会社 専務取締役

藤 裕之(昭和55年卒)

: 秋田市泉中央二丁目 2 番29号 TEL 018 (863) 0202(代表 FAX 018 (863) 0 2 0 5 平成部十文年報末初韓宇羽峰下14の12 平度10182 (42) 3 7 2 1 FAX 0182 (42) 4 1 0 9

医療法人清心堂 湊小児科医院

(昭和55年卒)

志

清水歯科医院 隆 夫

医療法人

動がなくても入会を認めます OB会には三年間の部活 ま 猿田興業 株式会社

代表取締役社長 猿田 五知夫

常務取締役 田知(昭和55年卒) 田

秋田市山王六丁目10番9 TEL 018-863-15

代表取締役

(昭和55年卒)

重 徳 (昭和55年卒)

郡協和町境113018(892)3001

五十人余がみずほ苑に集まっ 昨夏、 初の同期会となった我々 は年の時を経 昭和56年の卒業生百 昭 和 笑顔で旧友と語らう姿に、 学中の記憶が蘇ってきた。 56 2 昭和56年卒業生の集 卒同 初 期

はロビーに溢れんばかりの混 と参加者が集まり、六時前に にとって、卒業後二十二年ぶ 午後六時の定刻を前に続々 長い年月の隔たりで と題された会は、参加者が予 恩師代表川村博先生の乾杯へ 起人代表古井大樹君の挨拶、 想を大きく上回る大盛況。 こ臨席いただいた恩師の紹介、

りの再会であった。

会進行で終始盛り上がり、 と続き、西大君の名調子の司 周平君の花園宣言(有言 高らかに校歌を斉唱。 校ラグビー部監督の近藤 下弘先生の万歳三唱で幕 最高潮に達し、 実行!おめでとう!!) を斉唱。山、最後は声 で 母

雑ぶり。

すのによほど夢中だった な喋るのと盃を酌み交わ ようで、宴のあとには手 埋めるには、あまりにも ちらのテーブルに見られ つかずの料理があちらこ い二時間であったが、み 一十二年もの長い時を 区代表鈴木協一氏を来賓に迎

れるよう配慮したいと思 っている。 もっとゆっくり時間が取 次会へと突き進んだよう きず、ほとんどの者が一 積もる話も名残りもつ **小惑を越え、人生の折** 次回開催時には、

限りである。開催にあたって たようで、 **取も尽力された鶴田嘉裕君と** 会事務局に最大級の感謝を申 **똪面的に支援してくれた同窓** であるが、皆喜んでくれ ろで、一堂に会そう!と いうことで企画された会 幹事として嬉し

右くして亡くなった同期生の こ冥福を心からお祈りする。 最後に、故田口能祐先生



昭和12年卒同期会

あるが、関東在住の ずれも八十路半ばで 用客でもあった。 ったため、最後の利 ルの営業最終日であ 所であるが、同ホテ 重ねた思い出深い場

V

四名を含め十八名の 参加であった。これ

同期会が、

る昭和48年卒 りの開催とな

実に十年ぶ

月十五日、秋

同期会が開かれた。 協働大町ビルにて昭和26年卒 好天に恵まれた十月十日、 *A*. 師書 H 光和 昭 和 先 26

年

卒

同

期

等双光旭日章の高橋祐之助氏 四等瑞宝章の室田弘氏、勲五 の後、春の叙勲で受章した動 総会は小泉春雄会長の挨拶 出席者は四十一名。 会となった。

員大いに感激していた。 ように」とのお言葉を頂き、 るわけだから、 動状況報告を兼ねた乾杯の音 鈴木協一氏の関東地区の活

献酬を重ねるうち在校時代、

頭で開宴

も酣となり、約三時間に及ぶ より校歌斉唱、来年の再会を 迎え、田原廣英氏のリードに 懇親会も盛会のうちに閉会を 秋田の美酒を交わしての宴 大団円となった。 健司、高橋祥祐の四先生にも山岡雄平、藤田幸雄、藤森

できたため即決行。

出席いただき、約百名もの大

卒同期会」であった。 た、卒後三十年の「昭和48年 れるほどの盛り上がりを見せ

宴席となった。

各先生からス

い、出席者一 辞が送られた。 同より

進行、報告事項として、 内容説明があった後、 より受章の喜びを語ってもら 会並びに同期会の各種会議の 総会では、 滞りなく議事が 祝福の讃 無事閉 同窓

恩師寺田光和先生、

り「同期生も年齢を重ねてい 懇親会に移り、 余生に意義を発見する 健康に十分留 寺田先生よ 全

歴における各々の思い出話は つきることがなかった。 卒業―進学―社会人の人生経

題は池田朔次君 うかとの惟いで語ら が最後の集いであろ 刻でもあった。 会 (詳

さに長い間自

長崎淳子、

出席者の少な

ルで行われた。

前回開催

卒同期会が開かれた。

あまりの

出席者は、

来賓とし

田ビューホテ

月二日、

秋田ビユー

生を迎え

粛していたと

のである。名 の所在を確認 努力で八割強 簿担当幹事の 望む声が多く **企画されたも** 開催を

どで大いに盛り上がり、 先生方からのスピーチ で開宴。出席いただいた 徒会長伊藤秀樹君の乾 の挨拶で幕を開け、元生 と同期生約二百名。 佐藤高、佐藤英の各先生 山徹、熊沢耕生、 実行委員長高橋真人君 斉藤裕義、西村伊生、 鍋島太

容で、全員感銘を受けた。 ピーチを頂戴したところ、 時のアルバムやスナップ写真 が昔を思い出したところで、 で、全員感銘を受けた。皆だれ上手の一言に尽きる内 (越中谷正博 \Diamond 記 のリードで校歌を斉唱。

のあとは二次会~三次会~四し。浴びるほど飲んだ四時間 最早次回の開催時が心配さ そこから先は推して知るべ "未病を治す

をスクリーンで放映。

治療院

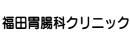
酋長 正行 (昭和46年卒)

自宅兼治療院 〒010-0101 秋田県南秋田郡天王町天王字追分西1-20 TEL 018-872-1228 FAX 018-872-1228

久 礼次郎 (昭和46年卒ラグビー部) 秋田市山王3-3-1 秋田県庁第二庁舎 創業支援室B-5 T E L 018 - 895 - 5310

有限会社 ノースエスコジャパン

取締役社長



(昭和46年卒)

私達には、BAUERがあります。 不可能を可能にする会社です。 基礎工事専門業者 **≨上** 基礎エンジニアリング株式会社

代表取締役 長敏(昭和46年卒)

0011 東京都品川区東大井5丁目1番2号 103号室 0 3 - 5 7 8 3 - 6 5 7 7 0 3 - 5 7 8 3 - 6 5 7 5 0 9 0 - 3 0 0 6 - 1 7 1 9



院長

〒010-0802 秋田市外旭川字前谷地43番 Phone 018-816-0311 f a x 018-816-0312

胃腸科 循環器科 小川内科医院

院長 島

(昭和46年卒)

目 3

五城目さるのセンター

大田宗工城日町子 「夕町226-TEL (018) 852-2027 FAX (018) 852-2735 TEL (018) 852-2749

10年目の再会

ランドホテルで開催

伊藤博次君の恵美子夫人が夜

八時過ぎ弘前より駆け付けて

した。幾度も懇親を

くださった。

の前夜八月三十一日 百三十周年記念式典

崎吉次君の筆である事、

等々。

名残り惜しさもあり二次会

の事や、『先蹤録』の題字が藤 細は七十二号に載っている

アキタニューグ

は十一名が同行。

なお、

12卒)を、母校創立

平成6年卒同期会

る友情を暖めた一夜となった。

(渡邉喜

当日は同期仲間と心に沁み

十名の恩師(伊藤孝紀、 めての同期会は大成功を 後は元応援団長渡辺毅君 テルにおいて、 平成6年 新年を迎えたばかりの 渡部克宏、庫

(昭和46年卒)

秋田市中通 6 丁目 5 - 1 TEL 018-833-2223 FAX 018-831-5481

健

〒010-0041 秋田市広面字家の下34 - 1 TEL (018) 832 - 3 5 3 5

(昭和46年卒)

だ

ょ

IJ

秋田高校水泳部OB会

など承認の後、 から同42年卒 後の事業計画 役員改選、今 あった。 まで総勢二十 三人の参加が 記念撮影に入 始めに会前

て昭和23年卒 の会員も含め 日午後六時、 タカで開催さ 秋田市のイヤ 五年八月十五 関東地区

会は、平成十 柴水会」総 写真や、 寄稿の ォーム「ワンピース水着」 く校章のついた当時のユニフ 13卒)から届いた、胸に大き





動で酒量が増し、幹事も大慌 田珠子氏(S29卒)の乾杯で かに、会の結束を固め散会し 千葉から出席の女子一期生山 名の出席で総会が始まり、 域の方々と分かち合うという 演を行った。折角の機会を地 本高志氏(S36卒)の記念講 (S40卒) の挨拶があり、 19卒)の挨拶、菅原洋学校長 務報告を兼ねた挨拶、新たに 税任された辻兵吉同窓会長 (S 趣旨で公開記念講演としたた どの卓も吉本氏の講演の感 庄一支部長(S23卒)の会 講演の余韻のなか、八十余 演に魅了された。 熱い思いを馳せる格調高い 約二百名が訪れ、ふるさと ル大和で開催された。 北大学総長に就任された吉 総会に先立ち会員であり 安

藤事務局長

た。 (越中谷正美(S29卒)記) `校歌、汀友会歌と歌声高ら 挨拶、秋元副支部長(S33卒)

播磨屋支部長(S35卒)

の懇親会では、坂本光彦氏(S 「秋中最後の水泳部の 大嶋清氏(S21卒) 会場は大変な盛り上がりをみ ッセージの紹介などがあって、 野孝男氏(S29卒)のビデオ 思い出」、そして、本年七月に 加会員からの思いを込めたメ ーズ2003」に出場した西 開催された「ジャパンマスタ せたのである。 放映に感動し、さらには不参

> 130 周

> > を記念し5年ぶりの開催

第6回鷹巣阿仁支部総会

題した講話をいただき、

◎昭和32年卒3Bクラス会

(東京田ム鉄会)

やかに長生きするために」と

テルニュー松尾(鷹巣町)

ルが決まり次第早めに案内す 軽に参加されるよう願ってい るので、若い年次の会員も気 とにした。いずれスケジュー を次なる世代にバトンタッチ を開催して「柴水会」の伝統 決まったが、中間には懇親会 できるよう情報交換をするこ 今後の総会は、隔年開催と

幹事長 境屋博儀加藤公朗 (S 34 卒) (S40卒) (S 26 卒 部総会が十一 五年ぶりとなる鷹巣阿仁支

月二十二

旦

朩

が選任された。その他の議事

藤原高司氏(S29卒)の二名 長に北林照助氏(S204卒)、 安東支部長が再任、新副支部

議事では役員改選が行われ、

b秋高の現況を話していただ) 榎豊教頭先生から同窓会及

三時間であった。

予定時刻をだいぶオーバー

母校の薫りを感じること

会

続いて

開催された。 市中央区) 当日は変わり シティ(札幌 ホテルノース 会が十月十八 やすい秋空の

札幌支部総

あなた

111111

が近づくにつ 谷副会長と佐 本部からは山 があちらこち を交わす光景 の再会の挨拶 わらず、定刻 らで見られた。 れ約一年ぶり 日にもかか は歓喜の声が湧き起こった。 出場の報が飛び込み、会場に その最中、ラグビー部の花園 たため、近所の人に「ひば、あ 5卒) は戦時中の複雑な学制 れぞれの思い出や近況等、 卒)の乾杯で祝宴に入り、 について触れ、自分より後に についてお話しいただいたが、 入学した人達と一緒に卒業し ルスピーチで河田氏(S20・ の花が咲いた。途中、テー 局長から同窓会、母校の近況 総会終了後、中川氏(S19 そ 話



いただき、早速会場で拝聴。

年の息吹~」を本部より寄贈 れたCD「大樹~樹齢百三十 校百三十周年を記念して作ら 野教頭に出席いただいた。母 懐かしい校歌・応援歌等が会 母校からは岡

问悉云**礼咒又**可干以 |

健闘を祈念するとの激励文を 選抜出場へ向けてのさらなる 副会長、岡野教頭、佐藤事務

夕会)総会が十一月八日、

ホ

平成十五年度土崎支部

んさん落第したなげ?(=そ

(斎藤カツ(S39卒)

からの、硬式野球部へ来春の 会場には笑いが広がった。 かれたとのエピソードを披露。 れじゃあ、 は落第したのですか?)」と聞 にぎやかな時が流れる中、 お兄さん、

期副会長さんの乾杯に続いて の退任慰労を兼ねて、急遽県 三十八名の参加を得ました。 内会員のみへの案内でしたが 国まで訪ねたり、また数年後 た。井上前同窓会副会長さん の幹事で若菜会を開催しまし 続いてのスピーチは会員を四 語る井上先輩の話に座も和み、 トンホテルにて39年卒業有志 弁たっぷりで退職後の人生を 会食に入りました。間に秋 同から労いの花束贈呈、 はニューヨークまでの計 昨年十一月二十一日ワシン 次

る 秋田高校80期「卒業50周年記念」3Gクラス会

寺田俊夫氏(S37卒)の その後、秋田県医師会会長 健

の開会の挨拶に始まり、安東 開催された。二十七名が参加。 長男支部長(SN卒)が挨拶。 いて辻兵吉同窓会長、母校 奈良正人幹事長(S41卒) 年代の垣根も忘れ、 イムスリップ、時の経つのも 唱。佐藤晋事務局長の乾杯に より開宴。一 Dを伴奏に校歌を五番まで斉 間ながらも達見を伺った。 懇親会は百三十周年記念C 一挙に在学時にタ 充実した

韻覚めやらぬ中、最後は藤原 の伊藤公夫氏(S4卒)のエー リードで校歌斉唱、毎回恒例 したが、今度は佐藤陽君 新副支部長の挨拶で閉会した。 ルで盛り上がりは最高潮に。余 63卒)、石井孝君(H10卒) (S 42 卒) の $\widehat{\mathsf{S}}$

により、 | 年の再会を願いつつおひらき を再確認したひと時でもあり となった。 佐々木君(S61卒)のリード までとのことでした。 因みに若菜会は45年卒業生 (小野義孝 (S46卒) 記) 全員で校歌斉唱。 来 **◎秋高32会** での自の ホテルメトロポリタン秋田 九月二十六日

「秋髙32会」

記

武藤会長、女性会員及び遠隔地からの出席者

類は森から生まれた 緑を」 植樹ボランティア ープ「森」

川上茂樹(昭45年卒) (昭46年卒) (昭46年卒) 康夫(昭47年卒) 藤原彰人(昭47年卒) 《連絡先》018-828-3033

内科·神経内科 消化器科·循環器科·呼吸器科 飯島ファミリークリニック

銀座三笠会館 十月十八日

悦

秀悦 健康診断・健康相談・往診 秋田市飯島字田尻堰越365(飯島サンパーク内) ☎ 018 - 880 - 5500 カネウチ

診療時間 平日 AM9:30-12:30 PM2:30-7:30 (第244間以作前中のみ 土曜 AM9:30~PM4:30 院長

次 内 洋 光 (昭和56年卒)
■0120-55 **8 2 4 1**

_{税理士法人} 相原三浦事務所 定幸

(昭和41+ **浦秀** 明 (昭和56年卒) **原定徳** (平成7年卒) 字給人町20--24-525 -24-255

◎80期3Gクラス会

九月二十七日

プラザホテル山麓荘

T E L F A X

院長

けやき通り歯科医院

休診日 木曜・土曜午後、 日曜、祝祭日 AM9:30~PM1:30 PM3:00~PM7:00 秋田県秋田市八橋本町3丁目14-14 018 - 864 - 6322 018 - 864 - 0611

医療法人 皮膚科 田医 岡

院長 岡 (昭和56年卒)

田裕子 岡 日本皮膚科学会認定専門医 〒010-0001 秋田市中通6-1-3 TEL (018) 834-3131 とつになり、十一年ぶりに優

勝することができました。 一

きらめないという気持ちがひ 支部新人戦では、最後まであ 統を継承していきたいと考え

ました。

昨年十二月に行われた中央

バスケットボール部のよき伝 高めていくことで、秋田高校 力づくりや、練習内容の質を 他校の選手に負けない基礎体

月二日には、毎年恒例のバス

体育館で開催されました。 ケットボール部OB会が本校

第

去る三月一日 (月)、第五十

卒業式では、まず学級担任

を手に晴れやかに母校を巣立 か、三百五十八名が卒業証書 在校生・職員に見守られるな れた。多くの来賓・保護者・ 六回秋田高校卒業式が挙行さ

別れの言葉を述べる佐藤護君

と「克己」を餞の言葉として、 辞では「山岳部のインターハ が授与された。続く校長の式 立ち向かって欲しい。」と卒業 ら逃避することなく困難にも 創立百三十周年に花を添えて の代表に菅原洋校長から証書 生に語りかけた。 もらった。」と、また「青春」 文化部の活躍が目覚ましく、 イ準優勝をはじめ、運動部・ が一人一人を呼名し、クラス 「前向きに理想を求め、現実か

生の圧倒的な存在感を感じた。 先輩方の自信は私達在校生の はねのけての活躍ぶりに三年 年であったと思うが、それを 会長の松岡晃司君が「創立百 一十周年が強調され、何かと 、レッシャーを感じ続けた一 次に在校生を代表して生徒

た。我々も精一杯高校生活を 送ることを約束する。」と力強 く送る言葉を述べた。 広く知らしめることにもなっ 決意を述べ、また「今の秋高

関係を大切にしながら、自分 を取り巻く世界のことをもっ かを意識的に捉え、他者との 我々は何のためにどう生きる 君が別れの言葉のなかで、「め まぐるしく変化する世の中で、 続いて前生徒会長の佐藤護

|と考えなければならない。] と | 任から一人一人に証書が手渡 に語った。

生徒会の原点 生徒会長 松岡 晃司

次の百四十周年に向けての第 なります。 史を築いていく気運に包まれ 同時に、学校全体が新たな歴 周年、歴史の重みを感じると た一年でした。そして今年も、 歩となる非常に大切な年と 昨年は秋田高校創立百三十

秋田に秋高ありと一に始まったリサイクル活動、 まずは、昨年度から本格的 È

| かねばならないことを後輩達 手の境界線を自らの考えで引 問題意識を持ち、自由と身勝 いか。」と問題提起をし、常に では自由や自主自律の精神が てさえ傍観者になってはいな 危機的状況にあるのではない か。私たちは自分自身に対し

一願っている。

生徒会新役員の活動始まる めるかもしれません。これから 度の回収量の二倍近くが見込 が定着したので、今のペース ることですが、全校生徒には だからこそ回収事業には最適 もうほとんど古紙回収の意識 目標は昨年度の回収量を超え な場であると言えるでしょう。 で続けたらもしかしたら昨年 の古紙や割りばしが出ますが、 ます。学校という場では多量 力的に行っていきたいと思い に古紙・割りばしの回収を精 最後のホームルームでは、担

助 状

の

健闘を誓い合いました。一月 B会から多大なるご支援を賜 | るとともに、さらなるご指導 選手たちは全県新人での をよろしくお願いします。

全県大会で 良賞

秋

バスケットボール部

部活動であれ輝きを 放つ

うかが最大の課題です。その

しました。

能代工業には敗れ

練習時間をいかに効率よく使

文武両道を掲げる本校では、

では決勝リーグで、能代工業、

中旬に行われた全県新人大会

大曲工業、横手の三校と対戦

選と、メニュー間の切り替え ためには、練習メニューの厳

を素早くする必要があります。

部

| ましたが、準優勝という結果 月には、宮城県利府町で秋田 に敗れ、実力の無さを実感し 盛岡市立高校と弘前実業高校 県の代表として東北新人大会 を得ることができました。二 に臨みました。予選リーグで、 | 号」は全県大会で優良賞を受 | される中、委員九人全員がフ 発行された「百三十周年記念 た。その努力が実り、九月に ル回転で取材や撮影に没頭し 年を迎え様々な特別行事が催 忙しい年であった。百三十周 賞した。私たちの「努力の結

方をはじめ、バスケットボー に謙虚になって、周囲の方々 ル部を暖かく見守ってくださ 大会出場にあたり、卒業する 三年生の先輩方やOBの皆様 しいと願っております。東北 に感謝する気持ちをもってほ っている全ての方々に感謝す 顧問としては、部員には常 山の方のご協力を頂きながら、 力となりそうだ。今後も、沢 たなステップへ飛躍する原動 技術の向上にも繋がった。新 晶」が高く評価され、嬉しく る企画が満載の秋田高新聞の 生徒の視点で秋高生が楽しめ 制作・発行に努めたい 思うと同時に、委員の各自の

と個性の結合」と部員たちは自

外の方面で培われた物の見方

負しており、更によりよい部誌

作りをめざしてがんばっている。

クールで受賞 全国文芸コン

受賞をあきらめていただけに 動状況でのコンクール参加で 会活動や兼部で多忙をきわめ、 瓜二本』が優良賞を受賞した。 さんの『沢水の河童の為の胡 受験間際の三年生や後輩にと 今回の受賞はとても嬉しく、 部員が六人、しかも全員生徒 俳句部門では二年生の高橋茜 誌部門で秋田高校文芸部誌 って大きな励みとなった。 合評会開催もままならない活 『琢磨第八十号』が奨励賞を、 コンクールにおいて、文芸部 第十八回全国高等学校文芸 『啄磨第八十号』は、「文芸以

思います。

生徒会新役員

積極的に提案していきたいと るこの姿勢で、斬新な意見を

す。「生徒会の原点」とも言え するためにあるのだと答えま

目となる。

佐々木主将は小学校四年生

18

同窓会だより七十三

より充実した学校生活を提供 のか」と問われたら、生徒に

の選手・部員に贈られる。

るはずです。

一生徒会は何のためにある

にしかできないことは沢山あ の声を聞き入れたり、生徒会

された。

平成十五年度は例年以上に

間と過ごした思い出や、保護 生徒たちはそれぞれ仲 哀 謹んで哀悼の 悼 (敬称略)

者への感謝の気持ちを述べ、

三年間の成長を振り返った。

され、

14 12 年 月

山本

輩達から花束を贈られたり、

その後も待ち構えていた後

15 年 7 月 8 月 正秋S14 昭雄5 20 27 浩 S 14

る卒業生の姿が校内のあちこ

ちで見られた。

卒業生の未来に幸多かれと

いに言葉を交わし合ったりす 先生方や仲間達と喜びいっぱ

10 9 月 月 三浦九二三S16 隆治S14 正哉S6 永吉S7 俊治533

12 11 月 月 戸嶋 弘S22 敏郎S11 正昭S 20 20 壮吉S13

会務事項報告

佐々木君優秀選手に

回戦で天理高校に惜敗した本 野球選手権大会に参加し、二 昨夏の第八十五回全国高校 日本学生野球協会 16 12 15 年·年 16 $\frac{1}{2}$ 平成六年次卒業十周 本荘支部総会

な表面的な対処は決して抜本 るのは簡単ですが、そのよう

これを学校側で厳しく対処す

期なのではないかと思います。 精神の内実が問われている時 なっている「自主・自律」の まさに今は、秋高生の基調と 難も無視できない問題です。

制服の乱れが多々指摘されま を迎えるにあたって、生徒の

した。校内で頻発している盗

模索していきたいと思います。 も、より効率的な回収方法を

また、昨年度は様々な式典

的な解決にはつながらないで

う場を設けたり、多くの生徒

しょう。生徒と教師が話し合

く人間性なども含め総合的に 表彰選手に選ばれ、全国表彰 将が第三十六回学生野球協会 校硬式野球部の佐々木圭太主 この表彰は、技能だけでな 2 2 24 13 9 企画委員会 同窓会入会式 北都銀行支部総会 広報委員会 秋田市役所羽城会総会

内の高校生としては二十五人 優れていると評価された全国 県 3 1 9 19 年次名簿委員会議 秋田高校卒業式 秋田県庁支部総会 化園出場募金委員会 入館支部総会

ぶりの甲子園出場を決め、創 としても攻守に活躍し、四年 リードしてきた。また、選手 ら主将に名乗りをあげ、部を から野球を始め、高校では自 もって、現在、 に励んでいる。 導者を目指したいという夢を 佐々木君は野球を続け、指 大学受験勉強

贈 义

『精選 秋高謳歌』(秋田人文科学研究会編) 「野の鳥の生態一 ~五』仁部富之助著

『長沙搶米風潮資料滙編』

立百三十周年に花を添えた。

藤谷浩悦著(昭和50年卒)

[暦が還るとき] 加藤征夫著(昭和36年卒) (成田實氏 昭和27年卒寄贈

意を表します 中橋野本 耕永 S 30 21

1 月 佐々木文子S45 敬直Sa

義春旧 福蔵T 博光S20 哲郎S 幸吉S3 S 36

2 月

佐々木茂雄S12 草階草一郎S13 佐々木重光旧 昭次S 8 37 宇吉S7 金雄S

歌・部歌収録)」千円、 百円のいずれも送料込みです ●創立百三十周年記念事業の 一千円、「記念誌」千円、 一環として刊行した一先蹤録

務局だより

●今年度の同窓会支部総会は

が若干残余があります。購入 会員名簿第三十八号」四千五 D(校歌・校友会歌・応援 い申し上げます。 の方がいるようです。ご協力 敷地内全域禁煙となりますの 承のほどお願い致します。 投稿がありました場合、その くリードし、部活動面におけ までご連絡を の場合は事務局か各年次の名 ることになりますので、ご了 は受付けておりません。もし 後に大いに期待している。 最上級生として全校生徒をよ 希望される方は同窓会事務局 くださいますよう重ねてお願 返送されてきます。住所変更 ●毎度のことですが、同窓生 採否は広報委員会に委ねられ もよいと言われているので今 一般に「武」がよい時は「文 る活躍ぶりが目覚ましかった。 の新会員を迎えた。在学中は 同窓会入会式で三百五十八名 百三十周年記念事業の祝賀会 でお知らせしておきます。 では十七年四月一日から学校 簿委員に届けて下さい。 の住所不明などで「だより」 の支援はありがたかった。十 担当をはじめ諸会合その他で 場の募金の際には多大のご協 ●忙しくて会費納入をお忘れ ●県の指導により、秋田高校 ●本紙では、原則として投稿 ●二月二日 (月) に行われた 当番年次」となる。 六年度は七と八の付く年次が 五と六の付く年次であったが、 ●十五年度の「当番年次」は 力をいただき感謝申し上げる。 が感じられた。甲子園・花園出 盛会で母校に対する熱い思い で開催されており、いずれも 十六年二月末現在で十九支部 が